

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201427		
法人名	有限会社まごころデイサービスセンター		
事業所名	グループホーム隠居の家		
所在地	宮城県石巻市井内字3番113番地2グループホーム隠居の家		
自己評価作成日	令和 3年 9月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和3年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人が自由にゆったりと過ごしていただける環境を提供できるように各職員が心がけてお手伝いいたします。またご本人様ご家族の意向や思いを受け止めてその人らしく暮らしていただけるように寄り添った支援を目指してご支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR石巻線稲井駅より徒歩5分、住宅街の一角に「グループホーム隠居の家」が有り、現在7名の入居者が生き生きと共同生活をしている。コロナ禍で各種行事が中止の中、暖かい日には、ホーム周辺の散歩や中庭でお茶を飲みながらお喋りを楽しんでいる。入居者は折り紙でちぎり絵を作ったり、家事の手伝いをしたり、カルタや将棋をしたり、体操するなど一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。医療面では、全員が月2回の訪問医療を受け、24時間体制が整っており、家族や入居者の安心に繋がっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム隠居の家)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全職員理念の再確認を実施し、本人様らしさを大切に笑顔で接していけるように一人ひとり心がけています。	開設当初に作成した理念を、ダイニングや玄関等に掲げて職員で共有している。病気が良くなった入居者と好きな鉄火巻きを買いに行く等寄り添ったケアをし、暮らしの中で笑顔で過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に入り回覧板や行事案内などを頂いている。	コロナ禍で地域の行事などは参加できない中、近所の方から花を貰ったり、散歩の時挨拶を交わしている。地域住民より相談があり、ホームの入居条件など、パンフレットで説明している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談やお問い合わせがあるときはその都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	施設での感染症対策や災害訓練の方法などを報告し実践に活かしております。	昨年4月以降コロナ禍のため地域包括職員、民生委員に書面を送付し、意見を貰っている。厚労省の情報から感染症としてのコロナウイルスについて、確認することが出来たとの意見を貰った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症対策マニュアルやコロナの抗原検査などの物品をいただき感染症対策を積極的に取り組むことができている。	地域包括と生活保護の方の入居の相談等話し合っている。コロナのワクチン接種方法について市と話し合い、ホームで集団接種が出来た。感染症対応の消毒液とプラスチック手袋の配布があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういう行動が身体拘束にあたるかなどを把握していただく研修やマニュアルを作り実践している。	内部研修で「虐待防止、身体拘束等の排除マニュアル」による身体拘束の弊害を学び、拘束をしないケアに努めている。車椅子の長時間使用を避けている。外に行きたいという方は、一緒に散歩に行き対応した。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを内部研修で全職員、学習しており、何が虐待にあたるのかを把握し防止に努めている。	研修会で、高齢者虐待の定義を学んだ。言動や身体的、心理的、経済的などの言葉や行動制限をしていないか日々のケアを振り返り、職員間で話し合い虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や生活保護制度などの取り組みについて支援できる体制作りをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書等について説明をし同意を得てサービス提供している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時等に現在の生活状況や往診の検査結果等お伝えしている。	家族には入居者の状況やコロナ対策について説明している。玄関のみの面会から、10月より検温、消毒を実施し20分位居室で出来るようになった。隠居便りは、元気な姿を見られて良かったとコメントを貰った。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在はコロナウイルスの抗原検査の実施等感染対策を職員と話し合いながら実践している。	管理者といつでも相談できる協力関係が出来ている。消毒の清掃で使うウエスを増やしたり炊飯器の購入など随時反映した。更新研修の全額補助や家庭の事情のある方のシフトの配慮も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、意見交換などを行い向上心を持って働ける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にあるオンライン研修やケアマネの更新研修など協力を頂いている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年も数多くの活動が自粛、中止になりましたが一部のオンライン研修やケアマネ研修等で他の事業所の活動や面会の取り組みを聞けました。	県のケアマネ研修会に参加し、各事業所のコロナ禍における面会や看取りについて、情報交換している。同法人のデイサービスと近況報告やコロナ対応など電話で話し合った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とゆっくりお話を出来るように余裕をもって業務にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時等で不安なことにも築けるような関係作りをしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから課題検討用紙へ移る段階でどのような支援が必要か見極めその後の支援に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな食べ物の献立や一緒に将棋やかるたなどを行い共に楽しく過ごしあえるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の実施や往診の検査結果など電話で連絡をしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の思いでのお話や馴染みの人の面会の支援などを実施している。	見慣れた日和山や石巻の海岸をドライブで車窓から楽しんでいる。入居者同士仲が良く、季節の折り紙作品やちぎり絵と一緒に取り組んでいる。家族や近所の方の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士での畑へ苗植えや季節の折り紙作り等利用者様同士で共同作業に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所した利用者様家族様からの相談等があった時などは様々な支援をできるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が毎日どういう感じで過ごし活動していきたいのか一人ひとりに聞いております。	入浴や居室での着替えの時など思いを聞いている。昔から慣れ親しんだ「日和山や牧山に行きたい」、気分転換に「スーパーに行って買い物をしたい」など、思いを職員と一緒に叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活状況を家族様利用者様にこれまでの経過や生活環境をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の介護支援記録やケース検討を行い情報の共有を実施している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時等の状況によって多職種との意見などを聞き必要な介護計画を施設で話し合いケアマネジメントを実践しています。	職員から情報収集し、ケアマネが作成している。3か月毎に評価し、変化があったとき随時見直している。下肢筋力が弱くなった車椅子の方に、乳製品を多く摂りラジオ体操を計画に入れ、状態安定に繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援記録を毎日作成し全職員で情報の共有と実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品、食べ物等の買い物や定期受診通院と様々なニーズに対応できるように臨機応変に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要なものがあるときは職員と一緒に買い物に出かけ楽しむ暮らしを支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診と定期的な病院での検査を実施していただいている。	全員が月2回、訪問医を受診している。専門医は、職員が同行し、服薬状況と病歴を伝えている。結果は家族に連絡している。夜間や緊急時は、訪問医と連絡を取り、24時間体制が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や往診時またはその都度電話で何かあるときは相談して支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは定期的に病院との連絡を頂いている。退院の時などその後の生活がスムーズにできるように病院との関係作りをしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新しく入居される時にはあらかじめターミナルケアについてはお話をしています。また日常においても入院時など現状において施設での生活ができるかを主治医、家族様等と話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期対応の指針」を説明し、家族の同意を得ている。症状の重度化や食事が困難になった時、訪問医の病院で検査し、医師の判断で入院かホームで様子を見るなど対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師より応急手当や初期対応の内部研修を実施して急変や事故発生に備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回も大雨ゲリラ豪雨など様々な災害を想定してどういうタイミングで避難をしていくか現状を全職員で再確認できている。	年2回、避難訓練(夜間想定も含む)を近所の方々に声掛けし実施している。気持ちが焦ることなく、声掛けをしっかりと行えるよう職員間で確認した。他に年2回、台風や大雨、土砂災害の非常災害訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個別の対応を考えその個人が自由に暮らしていただけるように支援している。	同じ目線で接し、不快にさせない言葉がけを意識している。失禁時は、声掛けに工夫トイレに誘導している。起床時は、季節に合った服を自分で選んでもらっている。整髪料を毎日つけている方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望をくみ取れるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶おやつの時間にどのように過ごしたいかなどを聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の色や服などを自分で選んだりしていただく支援をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の際には好きな物や季節的な物を入居者様と話してメニューにしていきま す。片付けなども協力していただいております。	入居者と一緒に、密を避けて広い商店で食材を買っている。ひき肉や刺身、あんこ物を好む方が多い。敬老会のちらし寿司、誕生会に希望のネギトロ、ひな祭りにケーキを一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際の量や水分量を支援記録に記録し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日個人の排泄記録により排泄パターンの把握を行い下剤の調節やトイレ誘導の時間を工夫している。	自力で行く方は4名、他は個々の排泄パターンを把握し、声掛けや歩行介助でトイレ誘導している。車椅子の方もトイレに誘導し、出来ることを見守り、出来ないことを手助けし、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と乳製品の摂取により便秘の予防を実施している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は一人3日に1回のペースで実施していますがその日に入りたい方やお出かけ前など臨機応変に対応しております。	同性介助など本人に応じた対応をしている。職員と家族の話や関節痛の訴えなど話しながら入浴している。洗い場ではシャワーチェアを利用し、浴槽内は滑り止めマットを敷くなど安全に入浴できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ナイトケアを実施し落ち着いて眠りにつけるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などで頂いた入居者様の処方箋をその都度確認して情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後に体操や将棋、工作など一人ひとりの楽しみを実践支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物にいつでも出かけられるようにその都度声掛けをしている。また散歩や畑での活動を行いながら日光浴などをいつでも楽しんでいただいている。	天気の良い日は、周辺を散歩したり、庭で日光浴や体操をしている。気温の高い日は、水分摂取しながら野外で畑仕事や水撒きをしている。コロナ禍の中、桜、つつじ、アヤメなど車窓から楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常に必要な物品や食べたいお菓子などメモしてもらい買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月面会などで話す機会や家族様と連絡を取ることができる支援をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングにはみんなで制作した季節の折り紙作品やちぎり絵などを毎月掲示している。カレンダーも手作りで色ぬりを個人個人でしていただき居室に貼っている。	ダイニングは天窓があり明るく、温湿度が管理されている。コロナ禍の中、手摺りや床などの消毒を行い、24時間換気も行っている。壁には敬老会や誕生会の写真を飾り、テレビを見たり、将棋やカルタをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では自由にテレビを見たり工作をしたりその時の思いで過ごしていただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや布団などを設置し、施設行事等で撮った写真をお配りし掲示していただいている。	使い慣れたテレビやタンスが置かれている。家族や昔の自分の写真を飾っている。好きな本を読んだり新聞を見たり、位牌に毎日水を供えお祈りするなど、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ浴室等、分かりやすく表示し歩きやすいように手すりも配置して安全に生活ができるようにしている。		